

グラフィックデザイン作品整備業務研修報告書

大阪中之島美術館準備室 外部研修生
竹本早織

1. はじめに

このインターンシップに参加した理由は、芸術作品やアートに関わる学芸員の仕事に興味、関心があり、作品がどのように保管、整理、調査されているか実際に体験し、今後の研究、将来に活かしていきたいと思ったからである。

2. 研修内容

- ◆ 1日目（7月31日） グラフィック資料の収蔵についての講義
早川良雄にまつわる本の調査・書き取り

午前中、グラフィックデザイン資料の収蔵についての説明があった。そもそもグラフィックデザインとは何か、種類、グラフィックデザインを後世に遺す意義など研修をするうえで知っておくべき知識を学ぶことができた。

午後は、早川良雄に関係がある書籍の調査を行った。まず、調査する本が何冊あるのかを把握するため一冊ずつ数えていく作業から始める。そして一冊ずつ出版年、出版社、ページ数、著者などを手書きで書き取っていった。

- ◆ 2日目（8月1日） ポスターの作品管理
収蔵資材制作

午前は、学芸員さんが読み上げるポスター番号に赤鉛筆でチェックを付けていく作業をした。ここでも様々な作品を見ることができ、勉強になった。

午後は、収蔵資材を作成した。引き出しに収蔵しておく際にポスターがシワになるのを防止する文鎮のような役割をする資材を作成した。アーカイバルボード（灰色）という特別な段ボールを適切な大きさに切断し、それに薄葉紙を巻いて完成である。一度作ると10年くらい使い続けることができる。



図 2 収蔵資材作成の様子



図 1 完成した収蔵資材

- ◆ 3日目（8月2日） 早川良雄作品（ポスター）の調査、情報の書き取り
作品の梱包研修

早川良雄のポスターの特徴や制作年、クライアント名などを一枚ずつ書き取って記録していく。同じデザインでも書いてある文字や、クライアントが異なるポスターもあった。特徴を簡潔に書き表すのが難しい点であったが、とても楽しい作業であった。

午後は、作品の梱包実習を行った。今回は例として雑誌やカタログなどに薄葉紙を丁寧に巻いて薄葉紙をヒモ状に切ったもので縛る。そして茶紙で再度梱包していく。運ぶ時に作品が傷まないように気泡緩衝材で包み、「平置き」と赤ペンで記載して完成である。額縁の梱包の際もほぼ同様であるが、額縁を収める箱の四隅に気泡緩衝材を詰め、動かないように固定する。

- ◆ 4日目（8月5日） 作品のコンディションチェック
早川良雄作品（ポスター）の写真撮影

午前は、作品のコンディションチェックの研修を行った。折れ、破れ、汚れなどを細かくチェックし、赤鉛筆で紙に記録していく。ライトを当てて作品をチェックしてみると、より鮮明に傷や汚れが分かる。細かい作業であるが、貸し出す前と後で作品に異常がないかを検証するためにも詳細な記録をとっておくことはとても重要な作業であると感じた。



図 3 コンディションチェックをした作品

午後は、早川良雄のポスターを一枚ずつカメラで撮影していった。大きなポスターなので、床に茶紙を敷いて、その上にポスターを置いて撮影した。

◆ 5日目（8月6日） 早川良雄作品の資料整備（原画）、梱包

早川良雄作品のアーカイブ資料（原画）の整理を行った。たくさん原画を見ることができ、貴重な経験になった。原画を大、中、小に分けて数え、適度な分量に分けて薄葉紙で梱包していった。



図 4 早川作品のアーカイブ資料
整理の様子



図 5 梱包の様子

◆ 6日目（8月7日） 早川良雄作品（ポスター）の調査、情報の書き取り
作品梱包見学

午前は、早川良雄作品（ポスター）の書き取り調査を行った。午後は、業者の方による梱包作業の見学をした。大きなポスターを梱包する際には、専門の業者に依頼するのだと分かった。貴重なポスター作品を多く見ることができた。



図 6 業者による作品梱包の様子

3. 研修を通して学んだこと、感想

学芸員の仕事を実際に体験することができ、学びの多い6日間だった。作品の調査、整備をどのように行っているかを勉強することができた。書き取り調査や梱包など一から手作業でやることが多く、手先の器用さもある程度必要だと感じた。作品のコンディションチェックの実習では、細かい汚れや傷などの記録をとった。展覧会などで作品を貸し出す前と後で、作品に違いが無いかなどの検証をできるようにしておくためにも作品のコンディションチェックは、細かい作業だが、とても重要だと感じた。

今回の研修で早川良雄という人物を知り、主にポスターの調査を行ったが、とても興味深い作品が多かった。百貨店のポスターが多くあり、女の人の顔をモチーフに描かれていたが、どれも特徴的で、カラフルな色使いのものが多くあった。しかし、全く雰囲気異なるポスターも多々あった。

グラフィックデザイン作品について詳しく知らなかったが、研修中に学んだことが多く、新しい視野を持つことができた。また知らなかったグラフィック作家の名前を知り、有名な作品を実際にたくさん見ることができた。研修中に得たものを今後の勉強、研究に活かしていきたいと思った。

学芸員の仕事は、作品のチェックだけではなく、梱包や収蔵資材などを「作る」という作業が多くあるということに驚いた。作品の保存状態を良い状態で維持するために専用のボードや薄葉紙を使うという工夫が多々あることが分かった。作るにしても、長く使うためには丁寧に作ったり、切ったりすることが必要なのだと思った。正確さと丁寧さが大切だと研修を通して学ぶことができた。

二万点以上あるグラフィックデザイン作品を整理し、データ化して管理していくまでには、まず数を数えることから始まり、作品を一つずつ書き取り、調査していくという流れが基本であることが分かった。特徴や制作年など細かく見ていく作業がたくさんあった。また作品を触る時や、移動させる時には手袋をして、慎重に取り扱うことが大切だと分かった。

今回の研修を通して、たくさんの作品を見ることができたことと、グラフィックデザイ

ン作品への興味が湧いたこと、学芸員の仕事を体験できたことは、とても貴重な経験となった。卒論や、研究などでグラフィックデザイン作品やポスター・広告の領域をテーマに研究してみたいと思った。研修をしなければ分からなかった作品の知識を得られ、グラフィックデザイン作品の意義などを考えることができた。